

2015年3月期 第2四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：通期の業績予想を8月予想から上方修正したが、その理由は？

A：下期は FPD 機器事業の売上の一部が翌期にずれ込む見込みですが、半導体機器事業は受注回復の見込みから、売上、利益ともに増加を見込んでおります。その結果、上期の堅調な実績を踏まえて、通期の上方修正をしました。

Q：半導体機器事業：第2四半期の業績が、8月予想と比較して、減収増益だった理由は？

A：売上の一部は下期にずれましたが、利益面では、コスト削減やポストセールスビジネスの売上が増加したことなどにより増益となりました。

Q：FPD 機器事業：第1四半期に比べ、第2四半期の受注が大幅に減ったが、その背景は？今後の業績や受注見通しは？

A：第1四半期まで堅調だった中国向け大型 TV パネル設備投資関連の受注に、一服感がありましたが、第3四半期からはまた回復を見込んでいます。一方、第2四半期の業績は第1四半期に比べ減収となりましたが、コストダウンに加え、プロダクトミックスの影響により増益となりました。なお、通期では黒字化を目指しています。

Q：MP 事業：第1四半期に比べ、第2四半期は増収増益。特に営業利益は大幅に増加したが、その理由は？

A：日本、英国で CTP 販売が堅調に推移したことにより増収となり、円安による為替の影響や、海外版社の収益改善が増益に寄与しました。

Q：今後の受注動向：第3四半期の受注の見通しは？

A：主力事業である半導体機器事業では、第2四半期の受注に比べて第3四半期は増加するものと予想しています。メモリーの堅調が継続することに加え、ファウンドリーが増加すると見込んでいます。FPD 機器事業は、上記のとおり、第3四半期には回復する見込みです。

Q：全体：4月1日の社長交代に続き、10月1日に分社化して SCREEN ホールディングスに商号変更したが、グループ内での変化は？

A：3つの主要事業をそれぞれ分社化し、各事業での独立採算制の強化やバランスシートに対する意識が高まっており、上期の業績結果にも一部影響が現れています。社長の垣内の下、予兆管理（予め定めた指標に変調の兆しが出れば、迅速に収益改善を図る取り組み）を徹底し、収益構造改革を進行中です。

以 上